

## 第13期 第13回 鳥取市校区審議会 議事録

- 1 日 時 平成30年2月16日（金）9時30分 ～ 12時20分
- 2 会 場 鳥取市役所本庁舎 4階 第2会議室
- 3 出席者 **【委員】**  
本名俊正委員（会長）、渡辺勘治郎委員、長谷川誠一委員、松ノ谷博委員、大村匡由委員、川口有美子委員、山田康子委員、牛尾柳一郎委員、田中弘之委員、森本早由里委員  
**【教育委員会（事務局：校区審議室）】**  
木村義彦次長、大坪宗臣主任、井上宏主事
- 4 会議次第
  - 1 開 会
  - 2 会長あいさつ
  - 3 議事録署名委員の選任
  - 4 報 告  
(1) 第12回校区審議会審議概要について
  - 5 議 事  
(1) 江山中校区の学校のあり方について
  - 6 その他
  - 7 閉 会

### 5 議事の概要

#### 事務局

ただいまより、第13回鳥取市校区審議会を開会させていただきます。なお、本日は、所用により、野口副会長がご欠席、吉澤委員が遅れられる旨の連絡をいただいておりますのでご報告いたします。

さて、前回の第12回校区審議会では、瑞穂小校区でも「小学校の在り方を考える会」が設立されたことをご報告し、気高中校区としての学校のあり方についてご審議いただきました。

また、江山校区の学校のあり方について、「小中一貫校としてどのような子どもを育て、どのような学校づくりを目指すのか」といった内容について、「江山校区の学校のあり方を考える会」から届けていただいた回答や、論点整理表をもとにご審議をいただきました。

今回は、議題を一つに絞り、江山校区の学校のあり方について、神戸小学校の小規模化という喫緊の課題もご考慮いただきながら、引き続きご審議をいただきたいと思います。

それでは本名会長よりご挨拶をいただきまして、以降の会の進行もよろしく願いいたします。

#### 会長

皆さんおはようございます。なかなか雪が降り終わらないのですが、日差しがかなり強くなってきて、夜明けも早くなり日の入りも遅くなり、1日が長く感じられるようになりました。雪はまだ降っているのですが、春が近づいているなという感じがします。

委員の皆様には毎回、重要な内容につきまして慎重にご審議いただいております。本当にありがとうございます。「中間まとめ」を公表して以降、市民の方々にも強い関心を持っていただいております。

いろいろなところで「中間まとめの回覧板回ってきたよ。」というような話を聞きますので、やはり鳥取市の小学校、中学校については、児童生徒数の減少と併せて社会の様々な変化がありますので、それに合わせて非常に関心が強くなっているなという感じがいたします。いずれにいたしましても私たち校区審議会では、子どもたちの健やかな成長を願ってどのような学校にして、どのような仕組みで校区を編成していったらいいのかということのを毎回進めていきたいと考えています。

前回、詳しく報告していなかったのですが、昨年12月に〇〇委員と〇〇委員と私の3人で鳥取市の中で最初の小中一貫校である湖南学園の創立10周年の記念の大会に参加させていただきました。なかなか興味深い内容でして、私も小中一貫というのは初めて現実に見たのですが、やはり9年間の中での取組の中で、中学校の先生が小学生の英語を教えておられるというようなことを具体的に見まして、こういう風に9年間でプランを十分に作って、場合によっては小学校の先生が中学校を見られている科目もあるのではないかなと思うのですが、そういったことを含めて1つの図書室で1年生～9年生の交流がよく進んでいるなという印象を持ちました。それには、一つは教育委員会のいろんなサポートが当然あったのだろうと思うのですが、先生方の努力と地域の方の、あるいは保護者の方、PTAの方々の強力なサポートがあるなという印象を持ちました。そういう意味では、これからどの学校もそうなのですが、小学校あるいは中学校が別々であってもそうですが、保護者の方、地域との結びつきというのがあって、さらに今まで以上の内容を発展させる学校ができていくなという感じがいたしました。

私が子どもの頃というのは本当に父親母親というのは働くのが大変で、子どもたちは学校にお任せで参観日もほとんど来ないという状況だったのですが、今は全く違うなという風に思いました。子どもの数も少ないですから、お父さんお母さんが子どもに期待することも大きいですし、あるいは期待しすぎるようなところもあるような気もしますが、いずれにしてもやはりこれから21世紀の日本、世界を背負っていただく子どもには様々ないいチャンスを大人がもう少し準備していかないとけないなということを感じました。湖南学園、とてもいい学校だったと思っております。

今日は年度末に近いということもありまして、江山校区の学校について慎重に審議していただいて、できれば、これまで何回も現地を見ていただいたり、地元の方とのお話も伺ったりしておりますので、ある程度方向性を出して、できれば教育委員会の方に答申ができたかなと思っております。ただ、教育委員会と校区審議会で齟齬があっても困りますので、その辺は教育委員会が納得できるような方向で結論が出せたらいいなと思っております。午前中からの会議で申し訳ございませんが、じっくり進めていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

続いて、本日の会の議事録署名委員の選任に移ります。名簿順で田中委員と森本委員にお願いしたいと思います。次回、印鑑をお持ちください。よろしく願いいたします。

それでは、報告事項に入ります。事務局より報告をお願いします。

## 事務局

[資料説明]

## 会長

前回のまとめを報告していただきました。何かご不明な点や、確認したい、修正した方がいい点がありましたらお願いします。もし、ございましたら議事の途中でも結構ですので、ご発言いただければと思います。

それでは、江山中校区の学校のあり方について、議事として一つだけ挙げさせていただいておりますので、それについてご審議をお願いしたいと思います。

前回、ご審議いただいた内容をもとに、参考資料の1ページに論点整理表として、多少の修正が必要なところもあるかと思いますが、一般的に言われていることを含めてまとめています。前回の議論をまとめますと、案4の「江山中と近隣の中学校との統合」ということについては、現段階では、現実的にはなかなか難しいのではないかと思います。そのあたりの議論をお願いしたいと思います。

案3の「神戸小と美和小の統合」については、吸収ではなく新設の統合ということで地域からは要望が出ているということです。

案1と案2は、義務教育学校あるいは小中一貫校ということですが、1年生から9年生まで一つの学校として進めるという一般的な特徴と、現実に江山校区で設置をする場合のメリットやデメリットを記載しています。

今までのお話をまとめますと、義務教育学校かあるいは小学校と中学校からなる小中一貫校にするか、中学校についてはもう少し置いておいて小学校だけの統合をするかという話になるかなと思います。この点については、これからの審議の中で議論を進めていきたいと思います。

一番皆さんが心配されているのは、中学校が小さいので、いつまでこの形で維持できるかということだと思います。江山中の生徒数の推移が参考資料の11ページに載っておりますが、現在の72名から104名まで増えていき、徐々に減ってまた増えるという推測です。これより先は、まだ生まれていない子どもを含むようになりますのでなかなか推測は難しいところです。中学生の生徒数としては、湖南学園より多いと思います。鹿野と比べるといかがでしょうか。

## 事務局

平成29年度は、鹿野が84名、福部未来学園が72名、江山が72名、湖南学園が46名となっております。100名を割っているのが、この4校になります。

## 会長

そのあたりがまとまった資料があればあとで配布をお願いします。

今、参考資料をご覧になっていただいておりますが、神戸小の本年度の1年生は1名で、また来年の1年生も1名になります。このような状況ですし、神戸地区からは、なるべく早く美和小と統合してほしいという要望を受けて、我々も実際に神戸小と美和小を見て、美和小の校舎で十分受け入れが可能だということで、ここのところは一致していると思います。それから、もう少し早くしてほしいという地域の要望とも一致していると思います。

あとは、中学校をどうするかということで、私なりにこれまでの意見を踏まえて検討してみますと、中学校をどこかに統合するとなると、少し時間がかかるだろうと思いますし、地域の要望に合わないと思います。こちらとしては、中学校をどうしますかということで投げかけており、それを受けた形で、地域からは小学校と中学校を合わせて一貫校でお願いしたいという要望が出ております。ただ、中学校が今の規模でいいのかという心配を皆さんがされており、本当に教育効果を上げるのであれば、もう少し規模の大きい形でということになると、どこかにくっつけるか、分けてしまうか、地区外からも受け入れてもっと大きな学校にしていくという方法があると思います。いずれにしても、単独校でするのであればそれなりに工夫が必要ですし、また単独校をなくすとするとそれはそれで難しいです。当面中学校を置いておくということであれば、案3の神戸小と美和小の統合だけというのが一つ

と、そして早く教育委員会に答申を出したいということです。もう一つは小中一貫校として、魅力ある学校づくりをむしろ積極的に進めてほしいという形です。現実的に、中学校を分割するというのは相当時間のかかる話で、なかなか難しいと思います。それよりは、小中一貫で成果が上がるような体制づくりをした方が、当面の生徒数の推移を踏まえるとその方がいいのかなとも思います。

実は、私の方で、小中一貫の場合の答申案と、神戸小と美和小の統合だけの答申案と2つの原案をつくらせていただいております。小学校だけの統合案については、中学校はそのまま置いておくということにしています。したがって、次の課題がまだ残るといふことと、地域にどのように説明するかという難しい問題があります。本日は、どちらかの方向性で結論を出していけたらと考えております。

この論点整理と併せて、少しご議論をしていただくか、あるいは二つの案の説明に入ってもいいかそのあたりはいかがでしょうか。

前回、〇〇委員から、案4の選択は現実問題として非常に難しいので、ないだろうということで、お話をいただいておりますので、私としては原案として、案1と案2をまとめたA案と、小学校だけの統合で中学校は置いておくという案3をベースとしたB案を作成してみました。この両方の案について、事務局で読み上げていただいて、それから議論をしていきたいと思っております。

江山については、今までの一貫校の湖南、福部、鹿野とは少し状況が違ってきます。これまでの3つの一貫校のケースについては、それぞれ旧町村などの枠があって、他との統合がなかなか難しいということもあり、小中一貫となっています。江山については、場合によっては将来に他と統合した方がいいのではないかというお話もありますので、これまでご議論をいただいております。ただ、また来年度も延々と議論を続けるということも難しい状況がありますので、一つの方向性を出していきたいと思っております。案1と案2をまとめたA案が参考資料の2ページから、小学校だけの統合をB案として5ページからまとめております。このような形でどちらかで答申できないかなと考えております。ただ、大事なことです、事務局で読み上げていただいて、その上で、議論をしていきたいと思っております。それでは、事務局、よろしく申し上げます。

## 事務局

[答申案読み上げ]

## 会長

それでは、続けて答申案の後に付いている資料をご説明したいと思います。8ページから10ページまで、神戸小、美和小、江山中などの位置関係または距離を示した地図になっています。11ページが江山中学校の生徒数の平成41年までの推移です。12ページが神戸小の児童数の推移ですが、先ほど申しましたように1年生が1人、2年生が1人というのが目の前に来ているという状況です。13ページが美和小学校の児童数の推移で、現在は143名ですが、その後平成32年度に115名になる見込みです。14ページは、論点整理の4案に関係しますが、江山中学校を近隣の高草中学校と一緒にした場合ということで機械的に足し算をした生徒数の推計になっています。おおよそ、300人から400人程度の規模になります。15ページは、その少し詳しい表で、クラス数まで示したものです。16ページ、17ページは同じく、江山中学校と河原中学校を足した場合の資料となっています。そして、18ページ、19ページは、江山中学校と南中学校を足したものですが、これは非常に大きい中学校になります。14ページ以降の資料は、江山中学校と別の中学校を統合した場合という案ですが、なかなかこれについては難しいかなと思っておりますが、ある程度大きな規模の方が、生徒にとっては、クラス替えもで

きますし、クラブ活動等もより活発にできるのかなと思います。ただ、地域との意見と合致しないという部分もございます。20 ページから 23 ページが福部の地域からの要望書です。24 ページから 25 ページが、第 12 期の校区審議会が出した答申書の写しです。これを参考にして、現在、A 案と B 案としてお示したところです。26 ページから 29 ページが地域から市長及び教育長への要望書です。これについて、第 12 期の校区審議会が教育長に答申した文書が 30 ページから 31 ページにございます。もう一つは、これは小中一貫校ではないのですが、南中の生徒数の増加による対応策として、南中の現在地に増築する案と、南中を分割して新しい学校をつくる案ということで、審議会で一つに案をまとめきれず、2 つの案を教育委員会で選択してくださいという答申が 32 ページから 34 ページにあります。このような答申書をもとにして、本日検討していただくために A 案と B 案ということで作成をしたところです。全般的なご意見とともに、江山中校区の 2 つの小学校と 1 つの中学校の児童生徒たちにとってどのようにしていった方がいいのか考えていきたいと思っております。今後、少なくとも 10 年、15 年あるいはもう少し長いスパンで考えないといけないのかもしれませんが、なかなか 30 年先まで想定するのは難しい部分もあります。鳥取市の人口も減少していき、その頃にはおそらく、30 年先までには中学校あるいは小学校全体の見直しをせざるを得ない時期が来るだろうと思っております。当面は、10 年あるいは 15 年をにらんだ形で、今は考えざるを得ないだろうと考えています。前回もご意見は多様でしたが、そろそろまとめていきながら、答申ができればと思っております。

それでは、ここで、先ほど配布をお願いした市内の中学校の生徒数の推移を示した資料の説明をしていただきたいと思います。

## 事務局

[鳥取市の中学校別生徒数推計の資料説明]

## 会長

はい、ありがとうございました。

## 委員

質問させていただいてよろしいでしょうか。生徒数だけであるとよくわかるのですが、資料の中にある江山中の築 50 年というのが気になっていて、例えば、建物そのものがいくら耐震化したといっても、あと何年もつかわからないという状況で、現在の江山中学校での継続というのは難しいのではないかと思います。例えば、耐震化が終わって大規模改修が進んでいくはずの予定の中に、江山の改築の計画があるかどうか教えていただけませんか。

## 会長

はい、こちらは事務局でご説明をお願いします。

## 事務局

おっしゃられますように江山中学校は非常に古い校舎になりますが、今校区審議会において江山中学校のあり方について検討がなされておりますので、ここでの議論を待った上で、方向性を出していくという考え方です。したがって、現時点で大規模改修を行うというような計画はございません。

## 委員

改築計画もありませんか。

## 事務局

随時、必要なものについては行っておりますが、大規模な改修についての計画というのはここでの議論を待ってからということになると思います。本日、2案お示しいただきましたが、A案ということであれば、例えば美和小学校に特別教室棟を新設して、そちらの方に中学生を受け入れるということも形もございますし、B案ということであれば、それに応じた方法で進めていくことになるかと思えます。ただ、江山中学校を存続していくかどうかだけのお話ではありませんので、先ほど会長からもお話がございましたが、校区の全体の見直しということもこれから出てくるのではないかと考えています。

## 委員

8町村と鳥取市が合併した時に、新市の財政状況とか住民の数とか色々な課題があって合併したはずですが、先ほどの中学校別の生徒数推計を見ますと、気高中から下が、だいたい新市域になっていると思いますが、その中に旧市域ということで江山と湖南が入っています。鹿野と福部と湖南は小中一貫校で進んでいますが、最近になって義務教育学校という制度ができて、中学校を残してほしいという考え方を乗り越えて義務教育学校という制度の中で、これになると中学校卒業生という言い方はなくなります。地域に義務教育学校がある、というような話になります。

したがって、今後は校長会も、小学校長会、中学校長会、義務教育学校長会という形になるそうです。そうすると、議論の中に、義務教育学校の推移というか、あり方というか、国が示すのかもしれませんが、そのあたりも頭に入れて、考えていく必要があるのではないかと思います。要するに、小中一貫校が着地点ではない、唯一の解決策ではないという記述があるのですが、では義務教育学校が解決策かということ、そうではありません。例えば、義務教育学校は部活動をなしにして、クラブで運営するというようなとてもダイナミックなことを考えていかないと、私たちの議論の中には部活動のことも心配してもう少し待った方がいいのではないのかといった意見もあったので、根本的にその議論も始まっているのであれば、そこも含めて考えていかないと、答申にならないのではないかと思います。せっかく出した答申が、すぐに生かされなくなるというか、また別の議論が必要になってくるのではないのかといった心配をしています。

## 会長

ありがとうございます。部活動については、国の方針も学校から切り離すと言っても、すぐに来年からというのは実質的に無理だと思いますし、数年かそれ以上かけながら指導者を育成しながら進められると思います。

## 委員

少し追加で申しますと、中体連という組織が部活動を統括しているのですが、全国中体連というのがあって、そこが全国大会や中国地区大会というものをつかさどっています。したがって、そういう

部活動に入らなくても参加できるような体制が現在ありません。中体連はクラブチームを管理していません。おそらく、そのあたりの見直しを全国の中体連の組織がしていると思います。それを抑えずに議論すると、私たちの議論ももしかしたら当てはまらない部分も出てくるのではないかと心配をしています。もし、クラブに所属する子どもたちが、どのスポーツでも大会に参加できるというような体制が整うのであれば、部活動の心配をしなくてもいいということになると思います。ただ、1年や2年で整うかと言えば難しいと思います。

## 会長

実際には、義務教育学校になったら、中体連の大会にいわゆる義務教育学校の7年生から9年生が出られないという事態は起きないのでしょうか。

## 委員

おそらく出られるのですが、所属がクラブでも出られるようになると思うのですが、そのような体制が今はないということです。

## 会長

現実には、部活動を外部に委託するというような考え方が出たばかりでありますので、しばらくの間は、今までのような中体連に加盟した学校でないと大会に出場できないということになるかと思えます。日本の多くの所で義務教育学校が年を追うごとに統計的にも増えている中で、7年生から9年生の、いわゆる義務教育学校の中学校に相当する部分の子どもが大会に出られないという事態を、おそらく中体連としては、置いておけないのではないかと思います。

当然、児童生徒が日本国民の一人として様々なところで、教育を受ける機会があるので、あなた方はだめですよということで、いつまでも言っているのではなくて、むしろそういう学校も何らかの形で、大会に出られる形にしていくのが国の役割だと思います。その点については、いずれ解決すると思うのですが、ただ、今義務教育学校とした場合には、それで終わりではなく、様々な多くの課題が出てくることはあると思います。長期的に見て、一つには、また児童数が減って統合という話になった時に、やりにくいということもありますし、教育効果も今の体制で上げられるかという部分もあります。

## 委員

義務教育学校とか国の施策で進むのであれば、鳥取市も生徒数が河原中以下の学校は、義務教育学校の方向を地域が考えられる時代が来るのではないかと思います。そうすると、親委員会である教育委員会がどのように考えるかで決まってくるところもあるかと思えます。

## 会長

これからこうして生徒数などが少なくなると、義務教育学校としての統合、中学校だけの統合、小学校だけの統合など色々な統合が出てくると思います。それが、鳥取市で何かに一本化できるかと言ったら、難しいと思います。すでに義務教育学校はできていますし、大規模校もある中で、このあたりは複数の選択肢の中で、その学校、その地区にあったものを選びざるをえないと思います。義務教

育学校自体が出てきたことが、人口減という今までにない、日本が経験したことがない中でのより良い学校、より良い教育を子どもたちにとすることで考えられた案ですので、学校を増やすということとは全然違います。新しい学校をつくるという思想をもって、これまでの湖南、福部、鹿野は進んできています。成果も、湖南では上がっているという感じがしますし、鹿野もしっかりと地域の方の体制で進んでいるなどと思います。また、福部も幼稚園を含めてということですが、地区がまとまっています。江山については、地域の体制が本当に大丈夫かなということと、かなり教育委員会でサポートしないと成果が上がらないのではないかと心配があります。ここで、中学校を切り離して、小学校の統合だけとなると、地域にどのように説明していくかということが必要になります。こちらとしても、中学校はこうしたらいいというものを、例えば統合するなら他と統合するというようなことも同時に出していかなければいけないのではないかと思います。それで、他の中学校との統合であればどのような統合が考えられるかということで、生徒数を足した表が資料にあります。これで進めるのかということです。なかなか結論が出しにくい部分があるのと、この学校だけの問題にとどまらず鳥取市の教育体制全体の問題であるということが、なかなか悩ましいところです。いずれにしても私たちが育ってきた、人口が増えていく、大きくなって新しいことをするという時代ではなくなってきています。小さくなっていきながらそれぞれ魅力的な学校をつくり、教育カリキュラムをつくっていかないといけません。これは鳥取市の問題でもあり、日本全体の問題でもあります。

私が心配しているのは、もし義務教育学校になった場合に、やはりかなり地域と教育委員会で練っていかないとなかなか難しいのではないかと思います。これから校長会などでも話題になる話だと思いますし、話題どころか討議をしていただかないといけない話だと思います。それから、この審議会だけで結論が出しにくい部分でもあります。現実には、神戸の状況を考えると、どこかで美和小との統合は早めに進めた方がいいと思います。そこで、もう一つは中学校をどうするのかということがあります。中学校はもっと先送りということでもいいのか、やはり一つの結論を出してむしろいい学校をつくるために力を入れていった方がいいのか、その辺の判断をせざるを得ない時期かなと思います。この他にも抱えている問題がたくさんあって、それぞれとても大事です。

それから、不透明な部分もあります。クラブ活動もだれかできるのかということ、今の状況であればこの地域もサポートしていただける方がおられるかということそうではないと思います。また、中学校の先生方には、中学校の教育からクラブ活動を切り離すということには、非常に強い抵抗があるのではないかと思います。教育の一環だと考えて、勉強とクラブ活動で子どもを育てるというのがありますので、それがこれまでの日本の学校でしたので、そこを切り離すといってもそう簡単にはいかないだろうと思います。当面、併存しながら進めていくかということと、クラブチームの芽生えを地域に任せないで、教育委員会も積極的に仕掛けていかないといけないのではないかと思います。この江山については、どこかのモデルケースになるような学校にしていかないと、つくる意味はないと思います。ただ、そこまでの素地が今あるのか非常に心配です。

基本的には地域の要望を参考にしながらこちらで結論を出していけばいいと思います。しかし、地域の言うとおりにする必要もありません。ただ、地域と意見が異なる場合は、対案を出していかないといけないと思います。そこところが、難しいところではあります。

現在、校舎が少し離れていますので、もし義務教育学校とした場合には、特に小中併任になる先生にとって非常に負担が増えます。これが何年続くかということです。一体型には早くしないといけません。今ですら、学校の先生の負担が大きいという状況ですので、先生方から不満が当然出てくると思います。それについては、加配してもらおうなどそのようなことも含めて考えないといけないかもしれ



れません。

## 委員

先ほど失礼ながら河原中より生徒数の少ない中学校という話をしましたが、実は校舎に非常に違いがあります。河原と青谷と千代南の校舎はとても新しいです。江山だけがなぜか築50年ということになっており、そこに決定的に違いがあります。その辺りについては教育委員会の話を聞くしかありません。

## 会長

私が伺っている範囲では、建物の大規模改修をすれば、これまで50年とかと言われていたものが80年に延びるということです。江山中学校はそのような改修がなされていますでしょうか。

## 事務局

必要に応じての改修は行っていますが、80年に延ばすような改修は行っておりません。文部科学省からの指導もあるのですが、長寿命化対策という視点で校舎の改修を進めています。40年～50年経過してから建て替えを行うという考え方もあるのですが、利用できる校舎については大規模改修を行って、寿命を延ばしていこうという考え方で最近を進めている状況です。

## 委員

江山中も長寿命化する改修をされるのでしょうか。

## 事務局

今、まさに校区審議会において、江山中学校をどうするかという議論をしていただいておりますので、それを受けて判断するという状況でもあります。

## 会長

別の場所に新築するとなると、参考資料の33ページの南中のあり方の答申を見ると、南中を分離して新しい学校をつくるという案は、総工事費だけの試算として約31.5億円となっています。また、現在地に増改築ということでは、どのくらい教室が増えるかということはあるのですが、試算で約10.8億円です。

もし、義務教育学校とした場合、人口が減り税収が減っていくという財政状況を踏まえると、美和小学校の校舎は比較的新しいですし、敷地も広いですので、そこに増築で一体型を早くつくり、小中併任の先生方の負担を減らしていくということが現実的な考え方であるかと思えます。前回、〇〇委員もおっしゃりましたが、例えば、3時間目に小学校で教え、4時間目に中学校で教えるということは校舎が離れていては現実的に不可能です。鹿野は2つの校舎が約800m離れているということですが、5・4制にして6年生を中学校の先生が教えるという工夫をしておられます。したがって、成果を上げるための何かの工夫が必要だということを、校長先生をはじめ先生方が理解しなければならないと思います。勝手に教育委員会が決めてということになってはいけません。

今までのどこの地区からの小中一貫の要望についても、小中の校長先生が加わってつくっておられ

るのですが、特に分離型の鹿野の場合は、何か工夫をするという気持ちで検討をされたと思います。しかし、江山についてはそこまで検討しているのか非常に心配をしています。したがって、教育委員会がかなりバックアップしないと、難しいかなと思います。切り離して小学校だけを統合して、中学校はしばらくお待ちくださいということで、このまましばらく現状維持のままとするのが適切とするのか、例えば河原中と統合するのが適切であると出した場合に、そのあとの地域との調整がなかなか難しくなるのではないかと思います。どこの地区も小中一貫校にすれば成功するということはありません。小中一貫校とするならば、これまでの小学校と中学校と全く違った考え方を覚悟して入れていかないと成果は上がらないと思います。地域から小中一貫校がよいと上がってきても、委員の皆さんが本当にそれでいいのかと考えられるのは当然のことだと思います。それなりにお互いの覚悟がないと、あとは小中一貫校という方向性が決まったので教育委員会でやってくださいというのではいけないと思います。そういう姿勢が少し感じられるので、心配しています。そうであれば、中学校は少し置いておいて、将来どこかと統合していく、あるいは単独でも続けられるところまで続けるということでもいいのではないかと案も皆さんの中にはあるわけです。

義務教育学校になると、校長会は中学校長会にも小学校長会にも出るということにはならないのですか。

## 委員

現在はそうなっているので、会費も2つの組織に出しながら大変そうです。2倍の会をこなす必要がありますし、とても大変そうです。なので、義務教育学校は別枠の校長会をつくるか、今までのように小学校と中学校の校長会のように分けて2回出るということを持続するか、この部分が課題です。義務教育学校の数が増えれば独立してもいいかなとも思います。以前の鳥取市は、平成16年の合併の前は、中学校の校長会は10校くらいでやっておりました。それが突然、合併を機に倍になったという経過がありますので、それが元の規模に戻ることにありますので、規模については大丈夫です。

## 会長

委員の皆さんのご意見も伺いたいと思いますが、〇〇委員さん、いかがですか。

## 委員

前回の審議会が終わってから、神戸小と美和小のPTA会長さんと話をさせていただきました。私が、まずは小学校同士の統合を進めて、そのあとに中学校を考えていけばいいのではないかと伺ったところ、2人のPTA会長は「地域に中学校を残したい。その形は一貫校だ。」と言われました。前回の校区審議会でも議論されたのですが、「現在の中学校でも特色を出して頑張っておられるので、要望書で出てきたことであれば、小学校と中学校を分けていてもできるのではないかと話をさせていただいたら、「一貫校になったら、次の新しい委員会を開いて、もっといい学校づくりを考えますから、一貫校という形で進めたい。」ということでした。また新しい、いい学校をつくりたいという思いをPTA会長は持っておられるので、そういうことを踏まえて、義務教育学校にすると他との統合というのは難しくなると思うので、小学校と中学校を残して一貫校という形にして進めたらいいのではないかと私は考えております。

## 会長

義務教育学校ではなく、小学校と中学校を残した形で連携させるという形ですね。

## 委員

義務教育学校にするというのは、先ほど校長会の話もありましたが、なかなか難しい課題もあるのではないかと感じた次第です。

やはり、地域が中学校をどうしても残したいという気持ちが強いのではないかと思います。湖南にしても福部にしても鹿野にしても地域に残したいということで始まったのと同じで、江山も地域に残したいというのが強いのだなと感じました。

## 会長

確かに地域にとって学校がなくなるというのは、大変なことだと思います。それはどの地域の子どもにとっても、大きな学校に入るという良さもありますが、地域にとっては大きな問題だと思います。そういう意味では、続く限りは小規模校転入制度などにより工夫して存続しながら、どうにもならない状況になってから統合ということもあるでしょうし、もう一つは義務教育学校のような形にして児童生徒の数を大きくしてデメリットを克服していくかどちらかではないかと思います。論点整理には、4番目に他の学校と統合ということも書いているのですが、これは〇〇委員もおっしゃれましたが今すぐの話にはならないし難しいだろうというところだと思います。今すぐに取り組むという視点で考えると好ましい案ではないと思います。当面は生徒数が60名～70名程度で中学校をそのまま置いておくか、義務教育学校あるいは小中一貫にするかどちらかしかないかと思います。この校区審議会で、江山中を分けますというのは、相当な根拠がないと出せないと思います。地域が望んでいないことを、無理に他の方法でということになりますので、地域に説明していくのに相当な根拠が必要になってきます。むしろ、魅力ある学校をどのように作っていくかということ、こちらからどんどんサポートしていかないと、地域にだけ案をつくるようにと言っても難しいと思います。ただ、鹿野や福部や湖南の状況を考えると、江山で十分に議論がなされているかという点においては、少し足りないところだと思います。もっともっと地域で熱意を持って議論していただかないといい学校にならないと思います。今のままですと、江山中学校に進学すべき小学校6年生が、外に出てしまうということにもなってしまいます。子どもや親にも選択がありますので、中高一貫校や附属中学校もありますので、そちらに進学をするということになると、ますます小さくなってしまうということになります。中学校自体を少なくとも魅力ある学校にしていかないと難しいと思います。そういう意味で、教育委員会や校区審議会でもサポートしていかないと、すべて待ちの姿勢では難しいと思います。

## 事務局

今のお話に関係することですが、少しご紹介させていただいてよろしいでしょうか。

これまで、福部、鹿野と校区審議会から答申をいただきまして、教育委員会が小中一貫校の方針を最終的に決定した後に、各地域で学校づくりを本格的に始められたわけですが、それについてご紹介させていただきます。まず、教育委員会が小中一貫校の方針を決めた後に、小中一貫校推進委員会という組織を立ち上げて、教育委員会が委員を委嘱します。この委員というのは、地域の各組織の代表の方、該当の学校長・教頭、PTA役員などの方々をお願いをしておりました。

目指す子ども像といいますか教育目標などについては、半年かそれ以上かけて、学校の先生方が主

体になられて進められていきます。その過程において、教育委員会事務局としては参考になりそうな取組をされておられる学校をご紹介します、先進地に視察を行っていただけるような機会を必要に応じてご提供するなどして、進めていただいております。

小中一貫校になるとこれまでの小学校や中学校に比べてスタイルが大きく変わる部分が出てまいります。例えば、鹿野を例にとりますと、5・4制を採用することにより、入学式や卒業式、修学旅行や運動会、文化祭などの学校行事の実施方法が大きく変わります。また、通学の方法や制服をどうするかといった課題も出てまいります。そのあたりは、PTA が主体になられ、多くの保護者に理解していただくために周知を図られ、制服などについてはしっかりと議論をされて進めておられました。

また、地域の方々については、色々な啓発活動をやっておられました。この校区審議会でも毎回ご報告させていただいておりますが、鹿野地域では「かわら版」をほぼ毎月作成され、全戸に配布し、学校づくりの様子を広く地域住民にお知らせしておられました。そういった役割を地域の方が中心になってされ、学校とPTA とも一緒になって「かわら版」の中身について議論されました。また、コミュニティ・スクールも目指しておられるということで、そのような視点も持った議論をされています。

福部も鹿野も、学校と家庭と地域がそれぞれ役割を持って主体的に学校づくりを進めていただいているわけですが、それには教育委員会事務局も、必要な情報提供を行ったり、場合によってはご提案をさせていただいたり、あるいは予算の面でサポートさせていただくなど、しっかりと関わりを持ちながら学校づくりを進めておられるということをご報告させていただきます。

今回、江山中校区についてご審議いただいておりますが、校区審議会から答申をいただき、教育委員会において方針が決定されましたら、我々事務局としてはその方針に向かって、何とかいい学校づくりができるように、新たな学校づくりを検討する組織の議論の過程に積極的に関わっていきたくと考えています。

## 事務局

重複になるかもしれませんが、私もこの1年間、鹿野地域小中一貫校推進委員会の活動の状況を見てまいりましたので、感想を申したいと思っております。周知の問題がございましたが、「かわら版」を作成され、随時、協議の結果を短いスパンできめ細かく地域の方に報告をされておられました。それから、カリキュラム、どういった学校をつくるのかという学校の中の実際の運営については、校長先生方が非常に熱心にかかわっていただき、このような部分も住民に対して広く周知を行ってきたという経過がございます。また、小中一貫校推進委員会の会議には、校区審議室の職員が必ず部会も含めて出席し、常に議論に加わってきたという経過がございます。この1年間をとりましても、非常に濃密な議論がなされてきたのではないかと感じております。また、2月1日には、鹿野地域小中一貫校推進委員会の委員長のほか、校長先生も含めて4名の方が、推進委員会の活動の最終報告ということで教育長のもとにお見えになりました。非常に濃い議論がなされ、地域に対しての周知もなされてきたと感じたところです。

## 会長

それは、鹿野の場合ですね。

## 事務局

そうです。仮に小中一貫校という形になり、新しい組織を立ち上げられた時に、それができるのか

会長も心配しておられるところですが、会の運営ができれば小中一貫校に向けてのいいスタートが切れるのではないかと思います。確かに、中身の議論がどこまで徹底できるのかというところはございますが、教育委員会の事務局である校区審議室の職員は、ご紹介させていただいた鹿野の学校づくりの時のような形で関わっていく所存でございますので、その部分も申し添えさせていただきます。

## 会長

はい。それでは、委員の皆様のご意見を順番にお伺いして、審議を進めていきたいと思えます。

## 委員

今のような背景があるのを知っているんで、中学校の校舎が築50年ということを見ると、早急に教育委員会も何らかの手を打たれるのではないかとこの予想のもとに、もし建て替えをされるなら、美和小の空き地のあたりに新しい中学校を建てて、小学校と中学校を一体型にしながらも、それぞれの学校を残した形の小中一貫校の時期かもしれないと考えているところです。これをこれから10年程度、国の動向などを見ては、中学校の校舎がもたないのではないかとこの思います。ですが、改築はないのではないかとこの思います。全校生徒が70名前後の江山中学校において、新しい校舎を建てるとこの議論の方がもっと難しいのではないかとこの思います。財政面も加味していかなければいけないかなと思えます。実は、私自身も、義務教育学校が立ちあがったばかりで、その良さを知らない部分もありますので、論点整理の案1がいいかもしれないということは皆様のご意見を聞いていただけたらなと思えます。私自身としては、案2か案3で、案4はないと思えます。

## 委員

私としては、論点整理の案2に近い案3です。小学校は喫緊の課題で、早く統合をするべきだと思えますので、案3を中心に考えています。

鳥取市の考え方、校区審議会の考え方に立ち返ると、中間まとめの5ページにある「鳥取市の考え方」として、「『学校のあり方を考える検討組織』づくりを進め、そこで導き出された責任ある方向性を尊重する」、「校区審議会の考え方」として、「『学校のあり方を考える検討組織』づくりを推進し、地域の子どもの将来を見据え十分な議論がなされた結果については、基本的に尊重することとしている」とあります。

そこに書かれている、責任ある方向性はどんなものなのか、十分な議論がなされた結果というのはどんなものですか、というのはなかなか客観的にこうですとは言いきれない部分もありますが、「江山校区の学校のあり方を考える会」の方が言われた言葉に「一貫校の教育課程や、授業に関することは学校ですよ」ということがありました。つまり、義務教育学校をつくと決まった後に、学校が中心となってやることではないかとおっしゃられた考える会の委員がおられました。私はそうは思っておりません。今の時代は、校長として、どんな子どもを育てるためにどうしたいかということ、色々な方に理解し、納得していただくのが一番大きな職務だと思っております。しかし、多くの方に理解し、納得していただくというのは、本当に遠い世界の話です。ただ、それをやっていかなければならないなと思えているところです。新たな学校、一貫校なり義務教育学校なりということになれば、やはり、地域や保護者を巻き込んでいく必要があるのではないかとこの思います。

前回の会議でも、考える会からの回答文について、どの学校でも当てはまる内容ではないかと申しました。私は、そうであってはいけないと思えます。地域住民を巻き込みながら、こんな学校にした

い、こんな拠点にしていきたい、こんな地域にしていきたいということを出していただいた上で、なるほどそういうことなのかということをお私達の審議会でも理解し、その要望書に沿った答申を出していくという流れになると思います。

したがって、将来的には小中一貫校や義務教育学校の方向性にはなるとは思いますが、その場合は3つの学校は一体になった方がいいと思いますが、そういう方向性を目指しながら小学校問題に対応し、地域と保護者と学校を巻き込んだどんな学校にしたいかということをもっと十分に議論をしてくださし、責任ある方向性を出してくださいということが大事なのかなと思っています。逆に、そのような新たな学校づくりをするために、保護者と地域の意見を吸い上げるいいチャンスだと捉えてやっていってこそ、後々まで愛される学校づくりにつながるのではないかと思います。

確かに、江山の場合は、湖南、福部、鹿野と違って、1小学校と1中学校の統合ではないので、難しさはあると思います。難しいからこそ、どんな学校にしたいかということをもっと多く吸い上げていくことで、後々に、今の学校になったのだなと多くの地域の方が言えるようになるのかなということも、案3を中心にして案2に近い形ですが、そのように委員の一人として考えています。

## 委員

私も案3がいいと思います。考える会の委員の方にお出でいただいてお話を伺った中で、小中一貫校にして中学校を残したいという気持ちも、特に美穂・大和の方は強いようです。とにかく残したいということですが、まずは小中一貫校として残したいという意見でまとまったので、それでいきたいという思いがあるようです。

一番急がれるのは、来年度の1年生の児童数が1名というような非常に少ない状況にある神戸小学校であり、そのような状況を早急に改善していかなければならないと思いますので、案3のように、まずは小学校の統合を考えていただいて、次をどうするかということになると思います。そして、一貫校にするのであれば、一体型でないと効果は上がらないと思います。ただ、建物ができてからということになれば何年も先になりますし、先ほど意見もありましたが、これからなかなか財源を投入するのが難しくなると思います。そう考えると、なかなか新しいものを建てるというのは困難になると思うので、小学校を統合しておいて、あとは慎重に考えられた方がいいのではないかと思います。地区の方が言われる、中学校を残したいという気持ちもわからなくはありませんが、江山中学校があるわけですから、これはこれで将来を考えていかれたらいいのではないかと考えているところです。

## 委員

私は、文面になっている答申案でいくとB案が、論点整理の案では案3が望ましいと思います。前回から少し気になっているところがありまして、本編の10~11ページの資料を前回も見ていきましたが、〇〇委員のご意見の中にもありましたが、どこの地域でも通用するような内容となっています。そういうレベルのものが上がってきておきながら、私たちはこの文章をもって小中一貫校を推したいとなった時に、私は市民の方に理解が得られるとは到底思えません。私たちは、公的な審議会の委員ですので、説明責任があると思います。もし、どのようなことを根拠に結論を出されたのですかと市民から求められた時に、10~11ページの文書をもとに検討し、結論を出しましたといった時に、どれだけの市民の方が納得していただけるのかということをも、前回の会議から感じているところです。

ひとまず、神戸小学校の小規模化の問題がありますので、B案で答申をひとまず出して、小学校の統合を実行して、その後、江山中学校をどういう形で残していくのか、やはり地域の方の残したいと

いう気持ちだけで進めるのは危険だと思います。どうやって残していきたいのかという部分が見えてこない、私たちも市民の方に説明できないし、非常に無責任なことになると思います。残したいのであれば、どう残していきたいのか、おそらく今であれば小中一貫という形にとらわれている傾向が強いように思いますので、議論ができるような素地や関係性ができてからのことだと思います。鹿野で非常に濃密な議論ができたというお話もご紹介いただきましたが、まだ江山地区に濃密な議論ができるような様々な関係性というか、条件整備が整っているとは思えません。始まったら濃密な議論ができるかと言ったらそういうものではないので、そもそも整っていない部分もまだまだあると思いますので、ひとまずは、B案で小学校の統合、中学校については今後も検討を継続していくことが望ましいという形の方が、いいのではないかと思います。

## 委員

私もB案の方が望ましいのではないかと思います。これまで、地域の方のご意見や思いを伺った中で、先ほど委員の皆さんがおっしゃっていますが、思いは伝わってきますが、やはり見通しをもっての具体的な中身がもう少し見えないというか、そこで校区審議会において小中一貫校でいこうと結論を出していくには、もう少し中身が詰まっていないと思います。どういう地域にしていきたいか、どういう子どもたちを育てたいかということまで、具体的に中身がそろってからお話をいただいて、その上でこの場でも議論していくべきではないかと思います。小中一貫校ありきという委員の方のご意見もありましたが、その方向性が決まってから小中一貫校になるのだから、答申が出たのだからそこからやっといこうということを江山地区の方が言われておられましたが、新たな学校をつくっていくとか、小中一貫校をつくっていくとかということは、すごくエネルギーのいることですし、覚悟のいることです。それこそ、地域の方も含めてですが、PTAにとっても新たな組織をつくっていくということで、先ほど湖南では成功しているということの紹介もありましたが、そこまでには色々な道があり、現在は鹿野も取り組まれています。道ができるまでには大変な部分があります。そして、できてからも、それでいいということではなく、そこからさらにどう進化させていくかという課題も次々と出てきますので、そのあたりも含めてもう少し中長期的な視点も持って、学校をどうしていきたいかというご意見をいただいてからの判断の方が、小中一貫校設置についてはここの審議会としての方向はそれからでもいいと思います。まずは、神戸小学校の課題を解決した上で、中学校は現状維持というか、生徒数の推移を見ても1学年の生徒数はだいたい20名が10年間程度保たれるようですし、耐震のこともあるようですので、それは次の段階ということで、今の段階ではB案の方でいいのではないかと思います。

## 委員

私もB案が良いのではないかと思います。地域の教育を考える会の代表の方の熱い思いもわかりますし、地域の思いを大切にしなければいけないということももちろんですし、学校教育だけでなく、家庭や地域との連携も教育を行う上では大きなウエートを占める部分でもあります。やはり、これから先、どのような子どもたちを育てていくのか、子どもたちにとってどのような選択がいいのかを考えていく上で、現段階で一つに絞ってしまうのは少し性急ではないかという感じがします。今、江山校区について議論をしているのですが、近隣校区についてももしかすると違う思いがあって、江山校区だけを一つにしまったら、動きがつかなくなるような部分も出てくると思います。そういう面からしても、中学校は今の状況でしばらく様子を見た方がいいのではないかというふうに思います。

今後も全体的な見直しということもありますし、学校の部活動の問題も色々あると思いますが、やはり学校の集団生活の中で、子どもを育む部分も非常に大きいわけですが、今の状況では一つに決まってしまうという形になってしまいます。そういうことを考えていく中で、もう少し子どもたちが多くの可能性をもてるような形にしていけたらいいのではないかと思います。

人数的な部分を見ていただきたいのですが、江山中学校は現在72名ですが平成41年には76名という推計になっておりますが、この76名というのは最近統合した千代南中学校とほぼ変わらないような状況です。先日、千代南中学校の学校づくりに携われた方に会う機会があり、お伺いして見たのですが、現状で、本年度佐治小学校に入学する児童数は1人だということも伺いまして、統合した段階でこのような状況がもう起きているのかと驚いています。そういうことから、一つに決めてしまうということだけでなく、もう少し幅を持って考えていくことも必要なのではないかと思います。

## 委員

私も最初はB案ということを考えていたのですが、お話を伺って将来の江山中の方向性を考えると、周りの中学校と統合するという事は、地域の要望からすると考えられないと思います。今から将来の中学校のあり方を考えると、やはり小学校と中学校を一緒に考える方がいいのではないかと考えています。私としては、A案というのもありではないかと考えているところです。

当面は、小学校の統合というのは急ぐべきだと思いますが、中学校については結論を先送りにするにしても、方向性はある程度示してあげた方がいいのではないかと思います。他の委員の皆さんとは少し考え方が違うのかもしれませんが、私としてはA案の方に傾いているところです。

## 委員

私としては、B案が望ましいと考えます。論点整理表でいくと、案4よりの案3という考えを持っています。案4はあり得ないだろうというのが他の委員の皆さんのご意見ですが、鳥取市の校区を考えると審議会において、今の話ではなく、もう少しスパンを長く考えて江山だけでなく、他の学校にも課題があるわけですので、そこを大きく捉えて再編成していくという方向がいいのではないかと考えました。もし、江山を小中一貫校として、魅力ある特色を出して小規模校転入制度を活用したとしても、直ちに十分に人が集まるということにはならないと思います。

## 会長

皆さまのご意見を伺いましたところ、大勢ということではということではおそらくB案ということになるかと思います。B案となりますと、地元とどのようにやり取りするかということになると思います。B案は、小学校だけの統合にとどめておいて、中学校についてはしばらく置いておくというものです。ただ、その場合、我々、校区審議会として中間まとめにおいても「江山中学校の小規模化の課題をどうしますか」という問いかけをしており、その返答として地域は「小中一貫校」という結論を出しておられますので、我々としては、「当面は小学校の統合だけです」とは、中学校についても我々としてはどのような返事をするのか考えておく必要があります。中学校について、統合していくのかそれとも単独で残していくのかということですが、校区審議会としても、中学校は単独でということであれば、単独で残りうる魅力をつけさせる何かを出さないといけないと思います。

もう一つは、地域の熱意が文面だけでは伝わりにくいので、一般の方にこれをもって、義務教育学校にするということをなかなか説明しにくい部分があります。したがって、地域の熱意がさらに高ま



るのを待つといった選択をせざるを得ないと思います。

小学校の統合を考えると、吸収統合であればある意味、手続き的には容易なのかと思います。校名や校章や校歌はそのまま残りますし、神戸小のみが閉校という形になります。ですが、新設統合となりますと、新しい学校をつくるわけですから、校名などをどうするかということを手続き的に行う必要があります。校区審議会が吸収統合か新設統合という言葉で上げていくか、教育委員会で判断してもらうか、そのあたりをどうするかということがあります。ただし、地域は、神戸校区も美和校区も新設統合を望んでいるということですので、そこも一つの課題です。

また、例えば一年間程度、小学校を統合することを前提として、住民の中で、どのように魅力ある小学校にしていくのか、さらに中学校を含めてということであれば、もう一度議論してもらうような返し方もあると思います。

今の委員の皆さんの意見では、B案なのですが、会長としては、B案を上げたとして、地域に「では中学校はどうすべきか」という説明もしなければならないと思っています。

### 委員

基本的に、このB案の文面に則って話をしていった方がいいと思います。参考資料の5ページの小学校の統合の仕方についてですが、「新たな小学校を設置する。」とありますので、対等とか吸収とかという表現はあえて入れる必要はないかと思いました。江山中学校をこれからどうするかという、我々の説明としては、6ページの下段のあたりですが、「地域の中で十分に尽くされていないと感じられる。」とし、そのあとに、具体的にこちらとして要望する内容を含んだ一文を追加されればいいのかと感じました。

### 会長

中学校については、このような書き方で十分ではないかということですね。

### 委員

基本的にはこのような形でよろしいかと思います。

### 会長

実際には、中学校区の中での小中連携というのは以前よりはるかに進んできています。その意味での連携というのは、ますます重要なわけで、それを十分に進めながら将来的に校舎を一体型にするとか一貫にするとかを考えていった方がいいと思います。

### 委員

事務局にお尋ねしますが、用瀬中と佐治中が統合されて千代南中になりましたが、その時の答申の書き方というのは、どのようになっていますでしょうか。

### 事務局

申し訳ございません。現在、その資料を持ち合わせておりません。

## 委員

といいますのが、シチュエーションが似ていると思ったからです。おそらく、その時も佐治中側も吸収合併ではないという思いがあったのではないかと推測しているところです。

## 委員

佐治の場合には、地域に〇〇さんというリーダーがおられ、その方が音頭を取られ、吸収統合ではなくなっているのですが、校舎の場所については、了解の上で用瀬になったと思います。本来であれば佐治と用瀬の中間点に校舎を建てればよかったのかもしれませんが、その部分は佐治の方の了解の部分でうまくいきました。そして、校歌や校章や制服や校訓など、全部取り組みました。今回の小中一貫校の中には、そういった部分も一度にやっしまおうという発想も安易にあるのではないかと考えたところです。

私たちも委員の一人として説明責任がありますので、今回の委員の皆さんの意見を踏まえてもう一度教育委員会で吟味していただけたらと思います。また、耐震とか、築年数とかハード面も答申の文面に加味しておくべきではないかと思えます。〇〇委員さんが追加の文面のご意見をおっしゃりましたが、私もこのあたりの文面をもう少し書いておいた方が地域の方も理解しやすいと思えます。

## 事務局

中学校の施設についてということですね。

## 委員

他の委員のご意見においても、中学校の施設がいつか老朽化して使えなくなるということを察しておられると思います。それは、築年数が差し迫ったときなのか、校舎を建て替えるならこの場所という計画ができたときなのか、それはわかりませんが、文言にあればわかりやすいと思います。

例えば、千代南中のことをイメージしていただければ、千代南中と江山中とは生徒数が2人しか違わないのですが、統合したばかりだから変更しないというのか、差し迫っているとして議論が再燃するのか、そのあたりは行政判断になるのではないのでしょうか。そういうことを予想しながら行政判断をされたらいいのではないかと思います。

## 会長

今までのお話をまとめますと、全体の雰囲気としては、「小学校は小学校で統合して発展していく、中学校は中学校で残して小学校との連携を今の形で、いわゆる中学校区で連携をますます進めていく。当面は中学校を残しながら連携の中で教育を発展させていく。」ということになるかと思えます。地区としては中学校が残ることになりますので、9年制を将来にらむのであれば、もう少し時間をかけて練らないといけないですし、例えば1年先に神戸小が統合するときに、一度に小中一貫校ということは、色々な委員会を立ち上げてやっていくことを考えれば時間的にも難しいです。また、現在考えておられる小中一貫校の内容が十分でないことを考えると、今までどおり中学校を置いておいて、小学校同士は統合し、中学校とは連携をしながら、もし小中一貫校とするのなら地域と学校で熱を入れて検討してもらうことになるかと思えます。中学校をなくすということは当面は置いておいて、今の形で発展させ、そしてある時期が来たらまた小中一貫にするのか中学校をどうするかについては、

また考えざるを得ないだろうということです。

地域としては、学校を残したいということで、小中一貫校ということですが、新しい学校をつくるのは1年程度では難しいでしょうし、義務教育学校も発展途上で、どう考えていけばいいのかということをもう少し時間をかけていかないといけないと思います。そういった形でよろしいでしょうか。

## 委員

それに関連して質問ですが、美穂や大和の方が神戸と統合してもいいと思っておられると思いますが、統合して学校名も変わるということも認識しておられるのでしょうか。そのような話はされていないかと思います。おそらく、神戸が美和小に来られるのは構わないというような考え方なので、学校名が変わるとまでは思っていないのではないかと思います。この内容の答申が出ると、ガラッと話が変わってくると思います。

## 事務局

江山中校区は、とにかく一貫校ということなので、中学校をまとめて新たな学校をつくっていきましょうという想定で要望を出してきておられますので、これが小学校だけの統合という答申であれば、ここについては地域の中でもまた別の議論が必要になってくるのではないかと思います。「江山校区の学校のあり方を考える会」としては、小学校だけの統合でいいという考えはありませんので、吸収あるいは新設統合というのは別の議論になってくると思います。

## 委員

今の案では、新しい学校をつくるということになっているので、この答申が出たら、美穂や大和の方が驚かれると思います。

## 事務局

仮にB案のような形で答申を返した時に、地域としてはアンケートを取られ、要望についても全戸に周知をされた形でやっておられます。こうした答申が出た後、今度は地域がどのように進めていくのかということが出てくるかと思っています。

先ほどもおっしゃられましたが、B案で決定して、小学校の統合を教育委員会で進めていくという答申もあるでしょうし、あるいはもう一年というお話もありましたが、地域の議論が深まっていないというのが多くの委員の皆さんのご意見でしたので、そういったやり方で進めていかないと、答申が出てしまった後では、地域の中で議論が深まるということはおそらくないと思います。そういうところを少し心配するところです。

## 会長

今の委員さんの議論では、B案のような結論になるのですが、地域とのやりとりを考えると、一年待つというかもう一度しっかりと検討してください、これではいい義務教育学校ができませんというような返し方もあるかと思っています。その場合は、答申を出すのはしばらく待つことになるかと思っています。それを考えてもどうにもならないという場合には、B案に進むしかないと思います。ただ、一年待つのがいいのかというところです。そんなに簡単に新しい学校はできないと、地域にもわかってもら

うしかないのですが、新しい学校をつくるにはそれなりの勉強もしていただいて、組織も作っていただいて、地域の中での会議をしていただかないとできないというのが校区審議委員の大方のご意見だと思います。それができていないので、中学校と小学校それぞれ単独でも今の要望の内容ではできないのではないかということだと思います。

小中9年の学校運営になると、その方法も相当勉強してもらわないとなりません。中学校と小学校が単独で発展しながら連携するというのが、今までもありうることなので、できやすいと思います。地域に学校を残すという意味では、小学校だけの統合でも十分意味があるのではないかということをおわかってもらわないといけなかなと思います。そのあたり、地域とのやり取りをどのようにしていけばいいのかということになります。

## 事務局

返し方によっては、先ほど〇〇委員がおっしゃられたように、地域の中でも議論するにあたり、新たな問題が発生してくるのではないかと少し心配しているところです。

## 委員

先ほど〇〇委員が言われた、この審議会の考え方が中間まとめにおいても「地域の子どもの将来を見据え十分な議論がなされた結果については、基本的に尊重することとしている。」となっていますので、これは言っていないといけません。したがって、心配することではないかと思えます。

## 委員

例えば、南中の時は複数案でしたが、今回も複数案を提示するとしたら、一つはB案のような小学校の統合案ですが、義務教育学校あるいは小中一貫校については十分な議論がなされていると審議会では判断できなかったもので、ひとまず現状のままとするというものです。もう一つは、義務教育学校か小中一貫校かはわかりませんが、方向としてはそれがいいと答申しますが、ただしこの状況ではゴーサインは出せないで、一年か二年かはわかりませんが、どのような学校づくりをしたいかという議論をした上で、進めましょうというような複数案というのはあり得ないのでしょうか。それは、より一層、地域が混乱するものでしょうか。

## 委員

今、〇〇委員も言われましたが、PTAの会長ですら巻き込まれていない人もいるというのは問題です。教員や校長も同じです、以前の例では校長も検討のメンバーに入っていました。その委員会ですのような発言がなされたのか知らずに言っているのですが、山本校長も取りまとめの会に入っているのですね。

## 事務局

「江山校区の学校のあり方を考える会」の委員でいらっしゃり、要望の取りまとめの会にも加わっておられます。

## 委員

しかし、個人的に伺うとあまり語っていないと聞きます。その雰囲気があるのはどうしてでしょうか。言わないといけない人が言わないというのはその人の責任だと思うのですが、そのような雰囲気があるのが、議論が煮詰まっていなかったと思われる原因の一つです。

事務局は、地域から出ているという結果論で言われているわけですが、要望書を持ってこられるまでの経過の面でそのあたりが少し不十分ではないかと思います。これには、議論がしにくい雰囲気というのが背景にありそうなのですが、なかなか答申に書きにくいところだと思います。

## 事務局

決してA案がいいということではないのですが、ただ、返し方をちゃんとしないと、こちらの説明責任あるいは地域で進めてこられた委員の方の立場もございますので、そういったことも十分に配慮して返していかなければいけないのではないかと思ったので、発言させていただいたところです。

それから、〇〇委員さんがおっしゃられた2案併記というのは以前も南中の際もありましたので、方法の一つではないかと思います。また、2案目としておっしゃられた、付帯意見を厳しくつけていくということも、これも方法であるかと思います。こういった形が本来の答申のやり方かということはないかと思います。ここの審議会の中で、このような答申案でということ審議していただけたらよいのではないかと思います。

## 委員

付帯意見を付けるということはできるのですか。

## 事務局

それは、これまでの答申でもございました。

## 委員

B案に書かれていた経過の記載中に、「小学校の他校との統合を選択した割合が31%と、小中一貫校に次いで2番目に多かった。」とありますが、つまりこれは小中一貫にしてほしいという割合が一番多かったということですね。

## 事務局

本編資料の4ページをご覧ください。平成28年の2月として、その結果がご確認いただけます。小中一貫校が43%、統合が31%、単独が17%、その他が9%となっています。

## 委員

このその他というのは何でしょうか。

## 事務局

他校区を巻き込んでの広範囲な校区再編というようなご意見などがあつたと記憶しております。

## 委員

平成29年の8月の小中一貫校62%というのほどのような数字になりますか。

## 事務局

先ほどのアンケート結果は神戸の考える会が実施したものですし、62%というのは江山校区の考える会が美和小校区にあたる地域に実施したアンケート結果によるものになります。

## 委員

では、これは今も生きている数字になるわけですね。

## 事務局

これをもとに検討されて、要望書を出されたということになるかと思います。

## 委員

これまでの私たちの審議においても、この62%という数字は低いという議論をしたと思います。約3分の1の方は賛成していないわけですね。

## 会長

教育委員会に上げていくにしても、神戸については早期の解決を図らないとなりません。ですので、神戸小と美和小の統合については、速やかに進めていただきたいと思います。中学校については、義務教育学校ということであればもう少し時間をかけて地域でさらに議論を進めていただきたいので、しばらく待つか、あるいは答申をそのような形で出してしばらく地域の議論を待つて行かうか、さらには答申ではなく報告ということで示していくかというようなことが考えられると思います。

いずれにしても、何とか31年度にできそうなのは神戸小と美和小との統合しかないのではないかと思います。新設をして1年で義務教育学校をつくるというのは、地域からまだ明確な教育目標のようなものが出てきていないことや校名を決めるなど様々な準備を考慮しても、時間的にも難しいと思います。

また、地域との良い関係もつくっておきたいので、そのところが少し心配でもあります。

## 委員

実施されたアンケートを見ると、小中一貫校や義務教育学校ありきのアンケートだと思います。そういった選択肢を外して、「神戸小学校と美和小学校が統合するのに賛成か反対か」、「もし統合するとしたら新設か吸収か」というような細かい設問がないアンケートなので、本当の住民の気持ちというのがこの結果からは見づらいなと思います。また、そこが、議論がなされていないことがわかります。

## 会長

「江山校区の学校のあり方を考える会」の方にもこの会にお出でいただいたのですが、やはり要望書自体が、会議の内容をうまく上げていない、地域の中でもなかなか話が進んでいないという状況ではないかと思います。どんな子どもを育てたいのか、どんな学校をつくっていきたいのかということが伝わってきていませんので、これでは少し難しいというところです。校区審議会もお返ししているのですが、地域でなかなか話が進まないということもあり、なかなか難しい状況です。

今の審議会の議論で答申するとなると、B案をもとにししながら、小学校のみの統合を進めて中学校については現状のまましばらく連携をしていただきたいという文章を強く入れて、進めるということになるかと思います。地域との要望とは合致しないのですが、地域の議論が十分に熟していないので、小学校だけの統合が望ましいとし、もし、義務教育学校とするのであれば、さらに地域での十分な議論が必要だということも付け加えていくという形でしょうか。

## 委員

確認ですが、6ページの経過に書かれている統合31%というのは、本編資料4ページの平成28年2月のアンケート実施の回答結果でしょうか。

## 事務局

そのとおりです。

## 委員

この時に、小中一貫校がいいと思われた方は43%だったわけですね。ですので、1番目に多かった回答と2番目に多かった回答にはあまりその差がないかと思います。

## 委員

その差はあまりないですし、どちらも半分を超えているわけではありません。ここに根拠として表れているアンケート結果の数値が低いと思います。

## 委員

また平成29年になると、小学校の統合が92%、中学校を小中一貫校というのが62%ということで、小学校だけの統合については9割の方が賛成しているという結果がありますが、答申案への取り上げ方がよく理解できないところがあります。どの数字を持ってくるのが、より説得性を持つのかという問題になってくるかと思いますが、31%という結果の提示がいいのか、あるいは小学校は9割の方が統合してほしいという結果もあるのであれば、9割と出した方が、ひとまず小学校の統合を進めていく上では、納得が得やすいのではないかと考えます。

このあたり、2回アンケートをされていますが、違いがよくわからないところもあります。

## 事務局

申し訳ございません。少し整理をして説明をさせていただきたいと思います。

まず、江山中校区の中には、神戸・美穂・大和地区がございますが、平成28年のアンケート結果

というのは、「かんの教育を考える会」がとられた神戸地区の住民のみを対象にされたアンケートになります。

そのあと、「かんの教育を考える会」により議論を経て、「近隣小中学校との小中一貫校又は近隣小学校との統合」という要望を出されました。そして、神戸地区だけでなく、近隣の美和小校区も含めた江山中校区における議論が必要ということや、中学校の小規模化も課題であることを受けて、神戸・美穂・大和地区で構成する「江山校区の学校のあり方を考える会」を立ち上げられました。

本編資料5ページにありますアンケートは、「江山校区の学校のあり方考える会」が実施したものです。ただし、その対象は、神戸地区以外の美穂地区・大和地区の2地区を対象としたものです。神戸地区は、すでに単独で要望書を出されましたので、地区内での総意が取れていることから、再度アンケートを取る必要はないだろうとうことで、このアンケートの対象からは外れたということがあります。

したがって、2つの組織が取られたアンケート結果にある「統合賛成」について、同じ回答でも住民の方の思いというのは少し異なるのではないかと考えるところです。神戸の方については、対等統合の思いが強く、美穂・大和の方については、〇〇委員もおっしゃられましたが、対等又は吸収統合の両方の思いがあるのではないかと推察するところです。

また、「江山校区の学校のあり方考える会」が実施した中学校についてのアンケートは、江山中学校の小規模化の課題が、第11期からの校区審議会の間中まとめで指摘されていることを受けて、それについて中学校がどうあるべきか問われたものです。したがって、小学校について問うアンケートとの直接的な関連性はないものと認識しておりますが、結果的に、中学校のアンケートで小中一貫校を選ばれた方の中には、小学校について問う設問では統合に賛成を選択された方もおられると伺っております。

## 事務局

補足させていただきますが、平成28年2月に「かんの教育を考える会」がアンケートを取られて、7月に要望書を提出されるまでかなりの期間を要しておられます。アンケート等の結果を踏まえ、議論を深められて要望書を出してこられたという経過がございます。それを受けて、「江山校区の学校のあり方考える会」が設立されて、現在に至っているということがございます。

## 委員

答申にどのアンケート結果を引用するかということですね。神戸地区の方のみのアンケート結果、美穂・大和地区を対象にしたアンケート結果、どのアンケートをあるいはどのように引用にするかということになるかと思えます。

## 会長

そのあたりを含め、どのようにしていくべきなのか、正直なところ地域との関係性のことを考えて悩ましいところです。確かに、このままでは地域の要望には応えられませんが、それはそれとして返していくというのは審議会として筋であるとは思いますが。



## 委員

答申というのは、どうしても6月に出さないとならないわけですね。この13期で答申を出していくべきということでしょうか。

## 会長

任期が6月までですので、できれば任期までに答申したいと考えています。神戸小のことを考えるともうすぐ年度をまたいでしまいますので、早く進めたいと思います。

## 委員

次期の校区審議会は14期になるわけですね。その14期で継続審議という形はありうるのですか。事務局の石上主査がおられませんが、その期ごとに決めた答申が白紙になるということも伺った記憶があるのですがそのあたりはいかがでしょうか。以前の校区審議会で、校区ごとに緊急度が示されたものがあったと思いますが、それが無いという説明をされたことがあったかと思います。せっかく答申したのにそれが白紙になるということがあるのでしょうか。

## 事務局

答申は、白紙になるということはありません。

石上主査から以前にご説明させていただいたのは、おそらく各期の校区審議会において示された「中間まとめ」のことではないかと思います。第13期においても10月に、この「中間まとめ」をまとめていただき、広く市民の方々に周知しながら、地域での議論の参考にしていただいているところです。各期の校区審議会が校区課題を考える上での、議論の基本姿勢や視点などをまとめた「中間まとめ」は、それぞれの期の校区審議会によって確かに変更になる場合がございます。様々な制度が変更になったり、社会情勢が変化したりすることにより、審議の姿勢や視点はそれに伴って、その時々々の校区審議会により変化していくものかと思います。

答申は、教育委員会に向けて出させていただくもので、教育委員会はこれを受けてさらに議論を深めて方向性を決定していくということになります。したがって、答申は白紙になることはないと考えています。

## 会長

本日、仮にB案で答申したとすると、教育委員会でさらに議論を経て、B案にするかあるいは差し戻すかを決定されることとなります。そして、教育委員会が差し戻しと判断した場合には、校区審議会の方で審議することとなります。ただ、おそらく教育委員会としては、校区審議会の答申をベースに議論されると思います。

本日結論を出すか、もう少し待つかという考え方が両方あります。今の段階で、答申したとしても、神戸小と美和小の統合とする内容で精いっぱいであると思います。現状としては、小学校と中学校を残して、それぞれで発展していくというのがいいのではないかと思います。

## 委員

前期の校区審議会でも南中の在り方を検討した時に、校区審議会の中でなかなか意見がまとまらず、

結局、答申案を作成いただき、全委員に送付していただき、チェックしてまた再度これでいいかどうか、やり取りを行った経緯がございます。この場では結論が出なかったもので、2回程度送っていただいて答申案を練っていったということがありました。今回もそのような形にでもしていただかないと、この場でということにはならないと思います。

## 会長

おっしゃられるように、この場で練るとするのは難しいかと考えております。B案について、数値の記載や校舎の課題などを付け加えて確認していただき、答申を出していくという手順が必要になるかと思っております。本日、一字一句見ていくのではなく、ご意見を受けて修正案をお示しし、再度検討していければと思います。

## 事務局

先ほど、文書でのやり取りというご意見もございましたが、この課題は非常に重要であると考えております。13期の校区審議会の中でも非常に大きなテーマであると考えますので、できましたら、もう一度ご審議いただく場を設けていただくということは難しいでしょうか。

## 会長

それはできるかと思いますが、実行が31年度から32年度となり、先送りになってしまうことになるかと思っております。

## 事務局

答申が出た後の、地域への説明などのことも見据えて煮詰めていただかないと、地域での前向きな議論やいい学校づくりが実現しにくくなりますので、委員の皆さまには大変お世話になるのですが、文書でのやり取りで答申案を練り上げていくのではなく、やはりこのような場で議論していただいた方がよろしいのではないかと、事務局としては思っております。

## 会長

次回、文書の中身も踏まえて、議論していただいて、方向性を出すということですね。

## 事務局

〇〇委員からも2案併記ですとか、もう少し厳しい条件を付してA案というご意見もありました。

## 会長

B案の場合でも、地域に考えていただかないといけないこともあります。もちろんA案については、この要望書を読む限りでは、地域で十分考えていただかないと難しいと思います。

それから、制度として義務教育学校という新しい学校ができる中で、学校をつくってしまえばいいという考え方はいけませんので、もう少しお互いに勉強していかないと踏み切れないかなと思っております。それであれば、中学校は中学校、小学校は小学校で別々に発展して行って、どこかで連携をしっかりとやっていくことで教育効果が上がるということになるのかなと思っております。そのあたりを、地域も

理解した上で、議論を進めていただかないといけないと思います。

ですので、校区再編の時期は後ろにずれてしまうかもしれませえんが、答申案についてはもう少し議論して、数か月のうちに結論を出していきたいと思います。

## 委員

事務局が考えておられる次回というのは、いつ頃ですか。

## 事務局

できるだけ早い方がよろしいかと考えますので、再び本日のご意見をまとめて答申案を提案という形になるかと思いますが、可能であれば3月にでもお願いできればと思います。

## 会長

それでは、3月末を目途にもう一度開催させていただいて、そこで答申ができれば行うという形にしていきたいと思います。それまでに、地域への返し方も考えて、地域も納得して議論が前に進むような答申を出していきたいと思います。

本日は、色々な心配もしていただきながら、新しい学校のあり方や中学校のあり方について詳しくご議論をいただいたと思います。ありがとうございました。

## 事務局

長時間にわたり、慎重なご審議ありがとうございました。以上をもちまして、第13回鳥取市校区審議会を閉会させていただきます。また、次回は3月に予定をさせていただきたいと思いますが、非常に重要な案件でございますので、よろしくお願いたします。本日は、ありがとうございました。

平成 年 月 日

会 長 本 名 俊 正

議事録署名委員

署名委員 田 中 弘 之

署名委員 森 本 早由里